

情報、オーディオ、アミューズメント、生活等、
広がる家電を学び開発につなげる学科



神奈川工科大学
ホームエレクトロニクス開発学科

Department of Home Electronics

企業からの期待

株式会社未来技術研究所

代表取締役社長 若杉 聡吾 氏

当社は創業40余年のコンピュータ会社です。ソフトウェア及びハードウェア開発を中心に、グローバル企業のハイテク製品の開発、官公庁向けのシステム開発、研究機関の先端研究の支援など多くの受託開発を行っています。



成功するまでやりきれぬ者が
「真の技術者」になる

2009年から、ホームエレクトロニクス開発学科で非常勤講師として学生を指導しています。社会で役立つ「人財」育成を理念に掲げ、技術者育成を目指す本学科においては学生に、何のための「ものづくり」か？誰のための「ものづくり」か？をしっかりと理解してもらおうことが重要だと考えます。

また、技術者としてホンモノの「ものづくり」をするには、

「売る」「買う」「使う」という視点を学ぶと同時に、技術者である前に一人の社会人であるという自覚が芽生えることが必要です。

私のプロジェクト授業では、「LEDを利用した和ろうそく」のマーケティングから開発、実証実験に取り組んでいます。2015年には、これまでのプロジェクトの成果として、和ろうそく独特の灯りのゆらぎ

のアルゴリズムを作り出し、特許を取得しました。毎年、前年度のプロジェクトを引き継ぎ、現在は新たなゆらぎの表現に取り組みしているところです。

学生の皆さんには、常日頃「成功を積み重ねる」とこと、「成功するまでやる」とことを習慣づけしてもらっています。

一歩ずつ着実に進むことと、粘り強く最後までやりきることで、技術スキルだけでなく、社会で生き抜くための考え方や人間力の成長を実感し、新たな目標に向かって自ら踏み出すことを期待しています。

卒業生の社会での活躍



大学時代の学びで一番印象に残っているのは、3年次の「企業連携プロジェクト」です。「和ろうそくの揺らぎを再現したLED看板照明の開発」をテーマに、前年度のプロジェクトで見つかった課題を改善するため、再設計・開発を行いました。

看板照明は屋外での使用を想定しているため、改善点の一つに、防水を施すことがありました。私は回路を担当していたので、防水と放熱を担うアルミ製ケースのサイズや効率の良い部品配置を考え、基板の設計から製作までを行いました。改善後に、看板照明を必要とする「森の新能」を主催するお客様の前でプレゼンをし、採用していただけました。残念ながら、その年に流行ったデング熱の影響でイベントは中止になりましたが、学祭で活用してもらいました。1年間、地道に努力した結果、優秀なプロジェクト

として大学から表彰してもらえました。その時の講師が、今、勤務する未来技術研究所の社長です。厳しい指導でしたが、しっかりと道を示してくれる姿に、「この人のもとで働き、支えられる人財になりたい」と就職しました。現在は、官公庁向けのシステム開発などを担当しており、お客様と打合せし、スケジュール管理をしながら、開発したものを試験して提供しています。在学中に実践的な学びができたことが現在に活かしていると実感しており、大変感謝をしております。

社会に出ても活躍 在学中に学んだワークフロー



大石 貴信

株式会社未来技術研究所
創造工学部
ホームエレクトロニクス開発学科
2016年3月卒業



〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 TEL 046-291-3002 FAX 046-291-3003

www.kait.jp/